

第6学年 道徳科学習指導案

1 主題名 相手を許すとは 内容項目 B(11) [寛容・謙虚]

教材名 「折れたタワー」(出典：日本文教出版「新 小学校道徳 生きる力」6年)

2 主題について

(1) 内容項目について

内容項目B(11)は「謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。」である。本内容項目は高学年からの指導事項であるが、中学年の段階では、相手を思いやり親切にすることや、友達と信頼し合い、助け合うこと等に関する指導を通じて育まれている項目である。中学校ではB(9)「それぞれの立場や個性を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。」に発展する。「寛容」とは、大きく分けて2つの要素からなると考える。1つ目は、自分と異なる考えや立場を受け入れようとする心である。2つ目は、相手を思いやって、他者の失敗や過失を許すことである。両者には、他者がとった立場や言動に対して、その理由は何か、なぜそうなったのか、理解に努めようとする心が基底にある。つまり、相手を理解し、存在を認めようとする心が、人間のもつ「寛容な心」と捉えることができる。

本質的に人は皆「自分は正しい」と考えがちで、自己本位に陥りやすい弱さをもつ。自分も過ちを犯すことがあるにもかかわらず、他者の失敗を非難したり、自分と異なる考えや立場を否定したりしてしまうことがある。今日のネットの炎上やいじめ問題に見られる、他者の過失や異なる価値観に対して過剰に攻撃する姿には、そのような人間の弱さが表れていると感じる。互いが他者に対して厳しく、自分以外の考えや立場を受け入れられない状況の下では、安心して自分の思いを伝えたり、本来の力を発揮したりすることが難しくなる。自分も他者も、生きにくい社会になってしまうのである。昨年12月に戦後初めて日本の首相が真珠湾を訪問し、日米が戦争について和解をしたことがニュースになった。安倍首相は、戦後の日米の関係について「私たちを結びつけたものは、寛容の心がもたらした『和解の力』だ。(中略) 寛容の心、和解の力を世界は今こそ必要としている。」

(2016年12月28日付 朝日新聞DIGITALより引用)と話していた。このように、相手を理解し、認めようとする心は必ず相手にも伝わる。そこで初めて相手に自分を理解し、受け入れてもらうことができる。一人一人が他者に対して「寛容の心」をもっていれば、豊かな人間関係を築くことができ、温かく平和な社会が実現するといえよう。

この時期の児童は、自分の考えやものの見方が明確になり、互いの考え方の違いを意識するようになってくる。そのため、自分と考えが合わない相手に対して反抗的な言動をとったり、他者の忠告や謝罪を素直に聞き入れられなかったりすることがある。そのような時期だからこそ、寛容ということについて考える機会をもつことは、他者を理解し受け入れることを学ぶという意味で大切なことと考える。

児童は今後、たくさんの人と出会う。立場や考えが違っても、相手を受け入れようとする柔らかく大きな心をもって生きていき、「広がりや深まりのある」人間関係を築いていってほしいという願いから本主題を設定した。

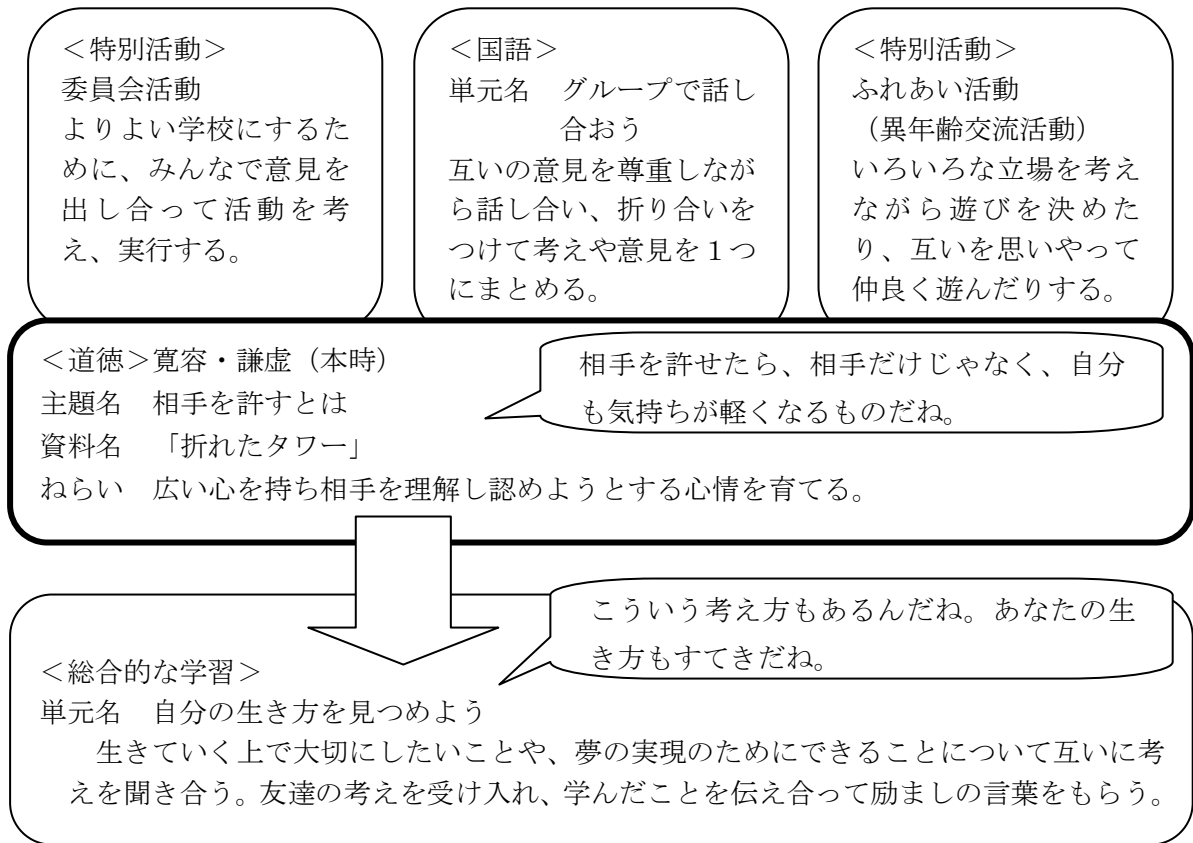
(2) 児童の実態 (略)

(3) 資料について

主人公のひろしはマスクを忘れてしまい、給食当番の仕事ができないことをのりおに責められる。数日後、掃除の時間に、ひろしの図工の作品をのりおが壊してしまうが、ひろしはうつむくのりおを許すという話である。

この資料は、主人公が小学生であり、児童が自分の経験と重ねながら価値について考えることができる。ひろしは、自分の失敗を責められた経験から、のりおが自分の失敗を責めたことと、一生懸命に作った作品を壊されたことの二つを許す。しかし、ひろしには自分の失敗を強く攻めたのりおに対する怒りや悔しさがあつたはずである。それにもかかわらず、のりおを許すことができたひろしは何を考えたのか、許せたひろしのことをどう思うかというところに焦点を当てて、人を許すとはどういうことかを、児童と共に考えていきたい。また、人を許せた時の気持ちや、相手とのかかわりの変化といった視点で自分の経験と重ねながら考えることで、なぜ人を許せるのか、なぜ人を許す必要があるのかを気付かせていきたい。

3 指導計画



4 本時の展開

(1) 本時のねらい

○広い心を持ち、相手を理解しようとする心情を育てる。

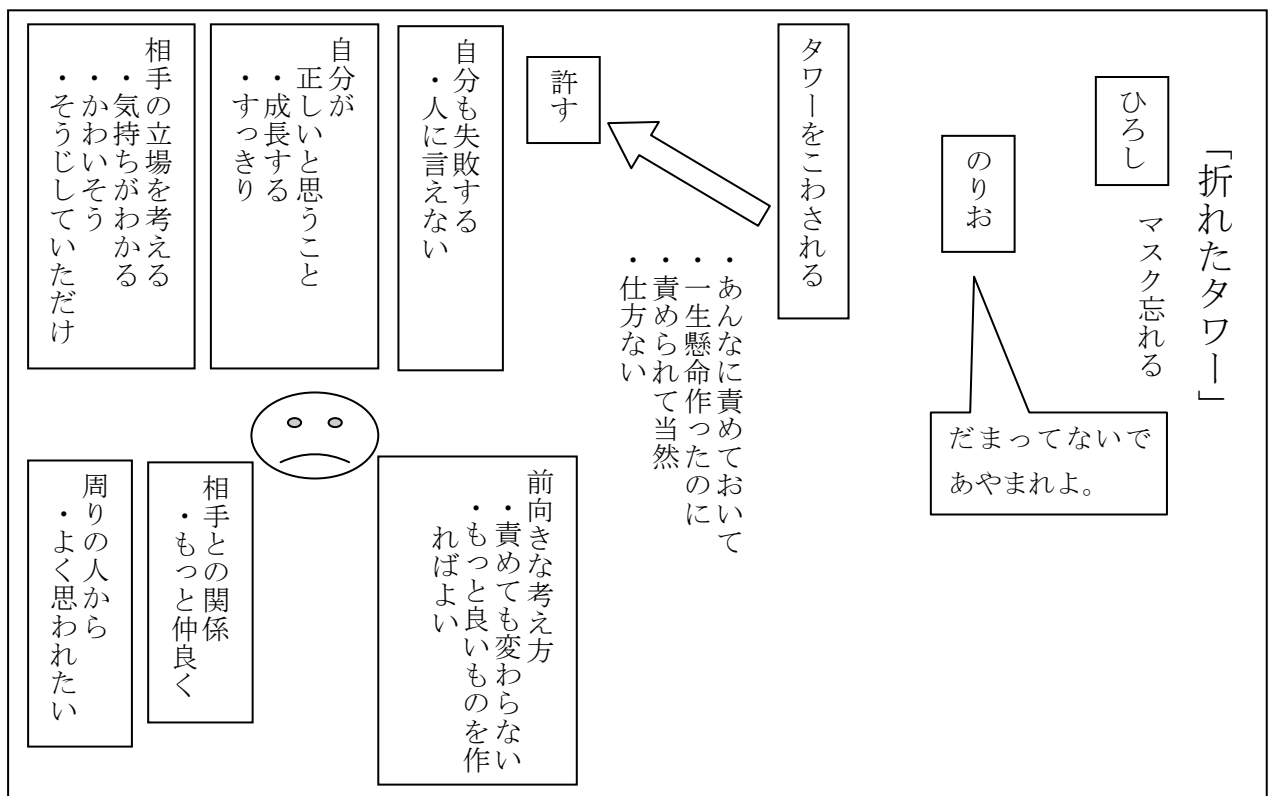
(2) 本時の展開

	児童の活動と内容	教師の支援・留意点 (○) と評価 (□内)・手立て (→)
導入	1 資料『折れたタワー』の前半 (資料1まで) 読み、主人公の心情を考える。	○話し合いの時間を確保するため、資料は事前に読ませておく。 ○理解のレベルを同じにするため、資料のあらすじを確認する。

<p>展開</p>	<p>○のりおにタワーを壊されたとき、ひろしはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あんなにぼくを責めておいて、なんだよ。 ・一生懸命作ったのに。 ・みんなに責められて当然だ。 ・わざとじゃないなら仕方ない。 <p>2 資料『折れたタワー』を最後まで読み、主人公が許せた理由について考え、話し合う。</p> <p>○ひろしがのりおを許したのはどういう理由からでしょう。</p> <p>相手の立場を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前に自分も責められて、のりおの気持ちがわかる。 ・うつむいているのりおがかわいそうだ。 ・のりおは一生懸命掃除をしていただけだ。 <p>自分も失敗する（謙虚）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も失敗するので、のりおのことを言えないと思った。 <p>前向きな考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責めても何も変わらないと思った。 ・もっと良いのをつくれればよい。 <p>自分が正しいと思うことのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許した方が、気持ちが良い。 ・許した方が、自分が成長できる。 <p>相手との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと仲良くなれる。 <p>まわりの人から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなからよく思われたい。 <p>3 詩『セトモノ』を読み、教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が失敗したとき、児童に「大丈夫だよ」「先生だって失敗するよ」と言われると安心する。 ・分かっているけど、自分はいつもやわらかく接することができない。詩の最後の部分に共感した。 	<p>○ひろしにとって、のりおは簡単に許せる相手ではないことに気付かせるため、マスクを忘れたことを責められた時のひろしの心情を考えさせる。</p> <p>ひろしの気持ちを話そうとしているか。 (観察)</p> <p>→自分がひろしの立場だったらどうかを考えるように助言する。</p> <p>○一人一人がじっくりと考えられるよう、自分</p> <p>ひろしが許せた理由を考えようとしているか。(ワークシート)</p> <p>の考えをワークシートの1に書かせる。</p> <p>○児童が考えようとしていない時は、状況を整理し、ひろしが見ているものや思い出していることを通して何を感じているかを想像するように話す。</p> <p>○小グループでの意見交換を通して、考えを深</p> <p>友達の考えを共感的に聞き、意見を言うことができるか。(発言・観察)</p> <p>める。</p> <p>→そばについて個別に助言する。</p> <p>○小グループで出た意見を全体で共有し、多様な考えに触れさせることで視点の幅を広げる。</p> <p>○全体の話し合いを通して「相手を許す」ことで自分や相手の気持ち、自分と相手との関係にもたらす良い影響に気付かせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手ともっと仲良くなることができる。 ・相手を安心させることができる。 ・自分も気持ちがすっきりする。 <p>○詩のメッセージが伝わるように、テレビに詩を映し、教師が心をこめて読む。</p>
-----------	---	---

<p>終末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難しいけれど、「やわらかいところ」を持った人になりたい。 <p>4 学習を通して「許すこと」について考えたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許すためには、いろいろな考えがあることに気付いた。 ・相手も自分も笑顔になれるから許せる人になりたい。 ・許す心を持てたら、けんかになったり、争いが起きたりしないからよいな。 ・相手の立場や気持ちを考えると許せるのだな。 	<p>○許すことについて自分の考えをまとめられる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇許すことについて自分なりに捉えたことを文にまとめているか。(ワークシート)</p> </div> <p>ように、ワークシートの2に書かせる。</p> <p>→友達に意見を聞いて気付いたことや共感したことを考えるように助言する。</p>
-----------	---	---

(3) 板書計画



(4) 資料

「折れたタワー」

資料1

今日は月曜日です。4時間目も終わり、給食の時間になりました。

「今日から5班の人が給食当番ですね。」

と、先生がおっしゃいました。その声を聞いたとたん、ひろしは、

(しまった。)

と思いました。マスクを忘れてきたのです。

給食当番は、必ずマスクとエプロンをつけるきまりになっています。忘れると当番ができないので、その班の人にめいわくがかかります。ひろしが、「みんな、ぼくマスクを・・・」と言いかけた

とたん、のりおが大きな声で、

「忘れたのか。ひろしはぼくと、牛乳を運ぶ係じゃないか。あんな重いもの、1人じゃ運べないよ。どうしてくれるんだ。」

と、どなるように言いました。その声に、教室にいたみんなが、いっせいに2人の方を見ました。

「だまってないで、あやまれよ。」

のりおは、また、大きな声で言いました。ひろしは、すっかりこまって、うつむいてしまいました。

「・・・ごめん。」

ひろしは、小さな声であやまりましたが、のりおの目はつり上がったままで、とても許してくれそうにありません。そのとき、同じ班の勝の声が聞こえてきました。

「のりお、そう言うなよ。だれだって忘れ物をするにはあるじゃないか。ぼくがひろしのかわりに、2回運ぶから、それでいいだろ。」

のりおは、まだ、ぶつぶつ言っていました。それでもみんなといっしょに給食の用意を始めました。

いつもは楽しい給食の時間も、ひろしには、今日は少しも楽しくありません。大好きなビーフシチューも、なんとなく、苦い味がしました。

2, 3日後のそうじの時間のことです。ひろしたちの班は、教室のそうじです。ひろしが机の上をふいていると、教室の後ろの方で、「グシャッ！」という音がしました。近づいてみると、図工の時間に作ったタワーがゆかに落ちて、折れています。ひろしは、

「あっ！」

と、声をあげました。ひろしの作品だったのです。

このタワーは、細い木をボンドでくっつけながら、何本も何本も組み合わせて作ったものです。完成までに何時間もかかりました。ひろしは、われながらよくできたと、満足していました。図工の先生もほめてくださった大作です。家に持って帰って、お父さんに見せるのを楽しみにしていました。

のりおが、タワーのそばでほうきを持ったままうつむいています。まわりにいた人たちが、身ぶり手ぶりで、タワーが落ちた時のようすを説明しています。ごみを集めていたのりおのほうきのえが、たなにおいてあったひろしのタワーにあたって落ちたようです。

ひろしは、数日前の給食の時間のことを思い出しました。あのときのくやしい思いが、心によみがえってきます。

資料2

ひろしは、だまって折れたタワーを拾い上げました。

のりおは、ほうきを持ったまま、じっとうつむいています。そのようすを見て、ひろしは、(今ののりおは、あのときのぼくと同じだな。)

と思いました。ひろしは、折れたタワーをそっとたなの上に置くと、

「わざと落としたんじゃないんだろ。しかたないさ。」

と言って、また、そうじの続きを始めました。

日本文教出版「小学校道徳 生きる力」6年より改作

「セトモノ」

相田みつを

セトモノと
セトモノと
ぶつかりっこするとすぐこわれちゃう
どっちかがやわらかければ
だいじょうぶ
やわらかいところをもちましよう
そういうわたしは
いつも セトモノ